

令和4年度 第2回 富田林市交通会議 レインボーバスのあり方検討分科会 議事録

主管：富田林市 道路交通課

日時：令和4年8月18日（木）午後2時～3時

会場：富田林市役所 3階 庁議室

- 出席委員 12名
柳原議長、酒井委員、中西委員、石田委員、南野委員、西田委員、池田委員、松永委員、天堀委員、美馬委員、塩野委員、秋元委員
- 欠席委員 2名
中村委員、北野委員
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人人数 1名
- 会議次第及び議事要旨
 1. 検討事項
 - (1) レインボーバスの方向性について（ワークショップの結果報告）
事務局から資料3に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は議事概要のとおり。
 2. その他
事務局から本分科会が今回にて終了となる旨を説明し、各委員にて了承された。
- 資料
 - 資料1 委員名簿
 - 資料2 配席図
 - 資料3 富田林市交通会議レインボーバスのあり方検討分科会について
- 議事概要
 1. 検討事項
 - (1) レインボーバスの方向性について（ワークショップの結果報告）
柳原議長 第1回分科会（ワークショップ）の結果を踏まえ、事務局より、レインボーバスの今後の方向性として3案を提示した。この3案について、本会議にて議論し、その結果を次回の交通会議にて報告を行うものとする。
まずは、私から質問をさせていただく。資料3のp.4～7のレインボーバスにて令和4年に実施したOD調査の結果について、乗車目的

等、把握されていれば補足いただきたい。特に、金剛連絡所で降車される方が多いが、その目的は何か。

事務局 令和2年7月にレインボーバスの利用者アンケートを実施しており、その時にレインボーバスの利用目的をお聞きした限りにおいては、買い物、通院、娯楽が多かった。今回のOD調査では、停留所を降りてからの行動について確認しておらず、停留所ごとの利用目的については把握できていない。

美馬委員 金剛連絡所から、買い物目的でレインボーバスを利用する方は少ないと認識している。金剛地区から金剛図書館や総合福祉会館へ行くためにレインボーバスを利用する方はいると思うが、富田林病院へは、無料の病院送迎バスを利用するため、レインボーバスを利用することはないのではないかと考えている。

柳原議長 レインボーバス利用者アンケート実施時の、利用目的の内訳はどのようなになっているのか。

事務局 鉄道への乗り換えが約10%、買い物、通院がそれぞれ約20%となっている。

柳原議長 既存の路線バスを利用すれば行くことができる場所へ、レインボーバスで移動している人の数は把握できているか。

事務局 今のところ、把握できていない。

柳原議長 どれくらいの方が、どのような目的で、レインボーバスを利用しているのか、その詳細を把握していただけるとありがたい。その他に、意見はあるか。

南野委員 今回のOD調査では、年齢構成を把握しているか。多くは60歳以上かと考えられるが、実際どのような割合となっているのか。

事務局 今回のOD調査では、年齢構成について調査をしていない。しかし、レインボーバスの利用者アンケートでは、約8割が60歳以上という結果である。

柳原議長 続いて、資料3のp.11の路線バス乗継割引を実施した場合の例として、金剛駅前から富田林駅前まで乗り継ぐ場合の試算を提示しているが、資料中の「3倍の経費が必要」という部分について、補足的に説明いただきたい。

- 事務局 今回実施したレインボーバスのOD調査において、乗継が必要な区間を利用した人数は1日平均50人であった。今回の試算では、路線バス、または鉄道（河内長野駅経由）でもレインボーバスと同等の人数が乗り継いでいると想定した。
- 柳原議長 本当に、路線バスや鉄道により南海金剛駅⇄近鉄富田林駅間を乗り継いでいる方が50人程度いると考えられるのか。また、実際に乗継割引を実施した際に、現在、鉄道により乗り継いでいる方が路線バスへ転換すると期待できるのか。
- 事務局 今回の数字は、調査などに基づく結果ではないため、あくまで想定による数字とした。
- 柳原議長 あくまで想定であるということでは理解した。一方、感覚的には乗継割引による経費が、資料の通り「3倍」になるとは考えにくい。その点は考慮いただいたうえで、今回、事務局より提案のあった、①～③の案について、各委員の意見を伺いたい。
①現在のレインボーバスの運行を廃止し、路線バス乗継割引の実施
②現在のレインボーバスの運行を廃止し、レインボーバス（活用した財源を含む）を交通不便地域対策に活用
③現行ルートを縮小及び運賃の値上げ
- 石田委員 ①について、各路線事業者との協議が必要となるが、②と組み合わせ、交通不便地域対策を行うことが良いと考える。
- 西田委員 ①～③の案の中では、②が良いのではないかと考える。また、先ほど報告いただいたOD調査の結果について、疑問を感じる。特に、富田林病院へは、富田林駅から十分な本数の無料送迎バスが出ており、わざわざレインボーバスを利用する人がいると思えない。この点も考慮したうえで、やはり②が良いのではないかと考える。
- 柳原議長 今回のOD調査の結果は、市民の感覚とずれているかもしれないが、調査結果は結果として信頼できるものである。
- 事務局 令和4年6月26日（日）に実施したOD調査において、富田林駅から富田林病院への利用が多くみられたのは、日曜日には病院送迎バスが運行していないためと考えられる。しかし、今回の結果からは、富田林病院前で降りた方が病院へ向かっているのか、団地へ向かっているのかまでは把握できない。
また、富田林駅から金剛連絡所への利用も多くみられるが、本当に金剛連絡所を利用しているかどうかは分からない。しかしながら、富田林駅から金剛連絡所へ行く手段として、レインボーバスは便利

だと認識している。

柳原議長 停留所ごとの利用目的が把握できれば、より分析が行いやすいと考えられる。

美馬委員 レインボーバスを廃止した場合、すばるホールや総合福祉会館へ行く手段がなくなってしまう。また、レインボーバスは片方向回りであり、津々山台や小金台にお住まいの方は、富田林病院へ行く手段がなくなるため、何らかの手段を考える必要がある。

池田委員 レインボーバスを廃止するというのは厳しいのではないかと考える。③のように廃止はせずに、交通不便地域に活用するなど何らかの方法を検討する必要があると考える。

松永委員 OD調査の結果を見ると、富田林駅、すばるホール、金剛連絡所、高辺台3号公園、総合福祉会館など、利用者が集中する停留所は決まっている。一方、あまり利用されていない停留所もあるため、③のように、撤去できる停留所を検討しつつ、ニーズが見込める地域への運行拡大などにより効率化すべきであると考え。例えば、汐ノ宮駅を経由し、すばるホールを通る経路などが考えられる。

天堀委員 OD調査の結果を見ると、意外とレインボーバスの利用者が多く、廃止ではなく、路線の縮小及び値上げとすることが良いのではないかと考える。その一方で、交通不便地域対策は重要であり、レインボーバスの方針とは切り分けて検討すべきではないかと考える。

南野委員 レインボーバスの恩恵を受けている地域は、富田林市の中でも限られている。交通不便地域への運行ルート拡大や、小型バスの運用などにより路線を増やすことも検討すべきではないかと考える。私の意見は②に近いが、富田林市全体が恩恵を受けられるよう再編すべきでないかと考える。

美馬委員 レインボーバスと路線バスとの役割を明確にしたうえで、全体的にメリットがあるように考える必要がある。特に現在は、レインボーバス、路線バス双方とも、人口減少や新型コロナウイルスの影響を受けており、それぞれが良いあり方を模索していく必要がある。

柳原議長 委員の方からの意見と、OD調査の結果を考慮すると、レインボーバスが一定程度、必要とされていることが理解できた。そのため、レインボーバスの路線は残しつつ、交通不便地域への対策を別途考えていく必要がある。
一方、①にて検討している路線バスの乗継割引について、バス事業

者からの意見を伺いたい。

秋元委員 乗継割引を実施するためには、近鉄バスと調整し、運賃箱やシステムの改修が必要となる。スルッと関西のICカード等であれば、物理的に対応することはできるものの、その手続きにどの程度の費用が必要になるのか等について、現状ではお答えできない。

塩野委員 スルッと関西等のICカードを利用した乗継割引への対応は可能であるが、運賃システムや機器が異なる南海バスとの間で調整するためには、相応の費用が必要となると考えられる。

柳原議長 今回、事務局から提案いただいた3案の中から1つに絞るということは難しいが、交通不便地域に対する検討は続けていく必要がある。今後、レインボーバスの方針としては、あまり使われていない停留所を間引き、路線を拡大する案、路線バスとの兼ね合いを考慮しつつ、路線を改変する案などを検討されてみてはどうか。

事務局 前回のワークショップにおける、委員の皆様からの意見をお伺いしたうえで、今回は3案を提示させていただいた。そのため、さらに1つの案に絞るということは難しいが、次回の交通会議では、皆様の意見を踏まえ、多くの課題に対処できる案を提示したうえで、さらに議論したいと考えている。

柳原議長 運輸局からの意見をお伺いしたい。

中西委員 私が以前、レインボーバスに乗車した際には、若いお母さんが乗っており、ニーズはある程度あると認識している。一方、路線バスと輻輳する範囲では、路線バスとの役割を見定めたいと、見直しを進めていただきたい。

柳原議長 レインボーバスを廃止するのではなく、既存の交通資源を最大限活用できるように、レインボーバスと路線バスの競合に配慮し見直しを行うということ、そして、交通不便地域への対応については、別途施策を考えるということで、本分科会の意見としてまとめさせていただく。

2. その他 事務局

レインボーバスのあり方検討分科会は今回にて終了となる。また、次回交通会議の開催日程については、決まり次第、各委員にお伝えする。

以上